

立科町ってどんな町？③④⑥ (フィールドワーク)

長野大学企業情報学部教授 前川道博先生
前川ゼミ生 4 名

実施日：令和4年10月17日（月）24日（月）11月14日（月）



「立科町ってどんな町？」というテーマで立科町探検（計3回）を行った。前川教授とゼミ生に来校いただき、3班に分かれて実際にフィールドワークを行った。見学場所は「権現の湯・ふるさと交流館」「道の駅女神の里たてしな・茂田井周辺」「蓼科牧場・女神湖周辺」。生徒はそれぞれの興味関心をもとに、写真を撮るなど資料集めをした。このフィールドワークで発見したことをまとめ、立科小学校と交流する予定である。

【生徒の授業日誌より】

・長門牧場はすごく品質の良い牛を作っていることがわかった。エサ代などが高くなっていて、経営が大変だということを知った。権現の湯は足が不自由な人も入れるお湯があることを初めて知った。カラオケもあることにびっくりした。

・立科山にこんなに大きい牧場があるなんてすごいことだと思いました。この標高で牛や馬を育てられるのは長門牧場しかないなと思いました。権現の湯には手術後の傷を見られたくない人用の福祉風呂がありました。利用客、一人一人に心配りがされている温泉なので、気軽に行きやすいのだと思いました。

・茂田井宿は今の時代とは違った雰囲気であり、とても勉強になる場所だった。今は使われていないものが使われており、すごく昔から大事に使っているのだと思いました。立科の道の駅にも寄りました。立科の生產品やこのお店でしか売られていないものが見られました。

・牧場に行って牛や馬を見ました。標高が高く、天気も悪く、すごく寒かったです。最後にあられが降ってきたのには驚きました。茂田井宿は昔、火事が多かったため、防火に関係するものがたくさんありました。

・さまざまな場所で地域の方々や職員の方たちから話を聞き、たくさんの情報を知ることができた。今度、個人的に権現の湯に行ってみたい。